

夏は気が滅入る季節だ
蒸し暑さもさることながら、
夏休みという大型連休が特に
クセモノだ。

外に出ればキッズとヤング
レジャー気分家族連れなど
でひしめいている。

俺のような実家暮らしの
フリーター…端的に言えば
ろくでなしだとして

そうゆうものにはちよっと
した圧迫感を覚えてしまっ
たものだ

…特に、その
娘であったり

なんか今日は
ヤケに暑いな…

それは身内の
帰省であったり

うん…

おじさん!!

!?

…茉莉ちゃん

ムウ…



彼女の名前は
遠野茉莉ちゃん

俺の妹夫婦の娘
いわゆる姪っこというやつだ

毎年長い連休になっては
妹が連れて帰省し、
なにかと関わることが多い

やっと
起きた...

…来てたんだ
まつりちゃん

もう
こんな時間か...

なつやすみ

父親は仕事人間で
来れず、妹…母親は
出かけがち

陽子ママは？

じもとのともだちと
おでかけだつて

よろしく

あゝ...

必然というべきか、
比較的歳が近い俺が
彼女の相手としてあてがわれる

お昼ごはん
あるからいっしょに
食べよう

…が、正直なところ
俺はこの子のことを
すこし苦手としている

別に悪い子ではない。
……というよりも、
間違いなく良い子の
部類だ



大人顔負けどころではない
肉感をこの子は無自覚に
押し付けてくる



最近の娘……
という言葉で簡潔させるには
余りにも進みすぎた発育。

明るくて人なつつこい。
素直で裏表なく接してくれる
数少ない癒しの存在でもある。
……しかしだ。



なにがとは言わないが、正直つらいモノがある。

茉莉ちゃんはいいい匂いがする。ああ、茉莉ちゃんだとすぐわかる甘い香り。

それはまるでフェロモンのように、男の本能を誘っているかのような…

っておいおい、なにを考えてる？ 仮にも妹の娘、ましてや●学生。

欲情するなどあつてはならない。あるハズがない!!

ねー、おじさんっ

ん？

おしりにあたってるかたいのなあに？

チンポには勝てなかつたよ……

♪

……



ってなにしてるの
茉莉ちゃん!?

なんか
かくしてる?

ん?

んんん



嗚呼…悲しきかな
意識から外れた男のサガ

「んんん」
「んんん」
「んんん」



!?

米
コ

鈴口に触れる
吐息

……ッ

限界は突然、
そして予兆なく
訪れた

彼女のフェロモンに
あてられたのか、
あるいはその無垢な瞳と

おじさん、
おちんちん
どうしたの？

ゴク……

淫猥な光景との
ギャップが決定打と
なったのか……

何年もせき止めていたものが
一気に決壊したようだった。

……茉莉ちゃん、
新しい遊びしたくない？

茉莉ちゃんは驚くほどに疑いなく、乗り気でその身を俺に委ねた

?

たーぱん

ん

おきん

茉莉ちゃんは
おどろくほどに
"将来有望"だった

ハアツ...♡
ンツ♡

なんか...っ
変だよおっ♡

ギョウ

ん♡

まだ誰も触れたことが
ないであろうそこに
触れるたび、彼女は
甘い声をあげ



戸惑いながらも
次第に、その未知の感覚を
受け入れつつあった。

おじさんっ♡
おじさんっ♡

そんなところ
きたないよおっ♡



あーん
ほっほっ
ほっほっ
ほっほっ

茉莉ちゃんが初めての
絶頂に達するまでに、
そう時間はかからなかった



気持ち
よかった？

…うん
なに？
いまのお…

今のは「イク」って
言っつて、女の子が
一番気持ちよくなれる
ことなんだよ

今度は一緒に
気持ちよくなってみる？

あ…



…イク？



これ…
おちんちん



一緒に？
そんなこと
できるの？

ああ、女の子のおまんこと
男のおちんぽがあればね

おまんこと
…おちんぽ？



ふふ…
まあね

ピストン

グニエウウウ

よーく
覚えてね…



すごい！

おじさん
なんでも知ってるね！

これが
セックスだよ!!

ハルツ♡

ハルツ♡

ハルツ♡

ハルツ♡

ううっ、すごいよ
茉莉ちゃん

狭くてキツイのに
トロトロで柔らかい

？

ハルツ♡

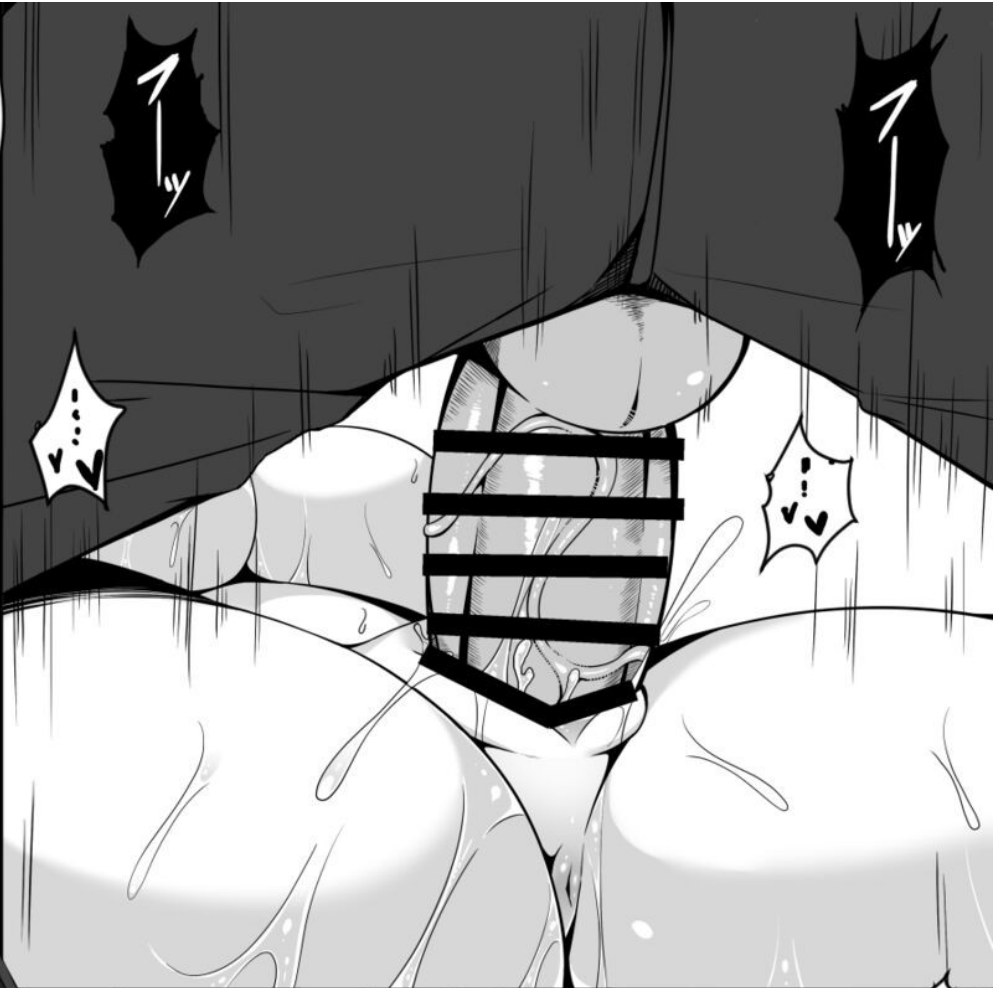
？

ハルツ♡





なに、これえ……♡



なんか、フワフワして……♡

気持ちいいっ♡



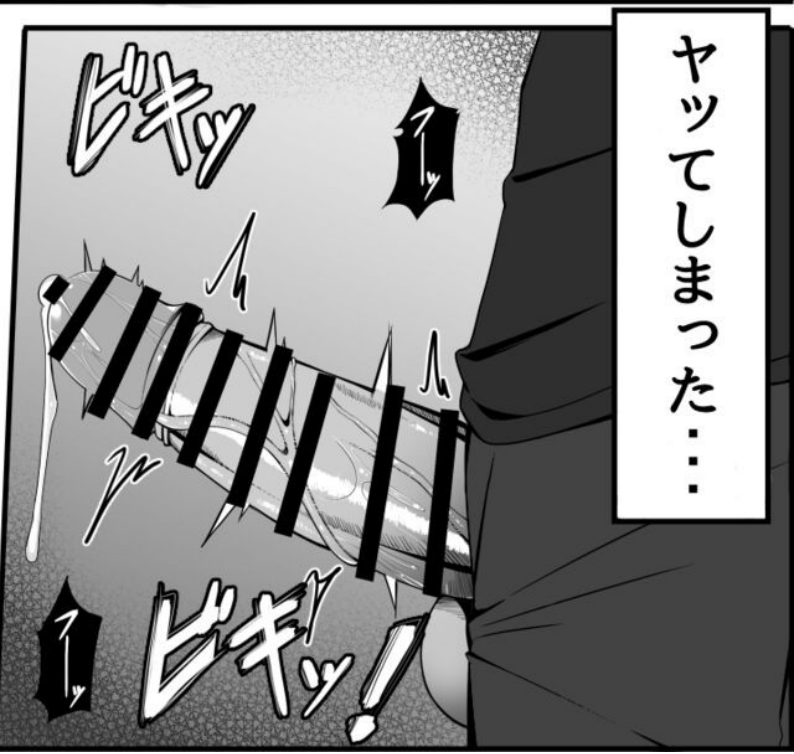
もじ……！

爆乳○学生に種付け射精るッ



そんな
後悔は

彼女の恍惚とした
表情がかき消してしまった



ヤツてしまった…

最初はただただ混乱する
だけだった茉莉ちゃんも、
次第に甘いメスの声を
上げ始めた。



それから
茉莉ちゃんとの秘密の
遊びは日常のものと
なっていた。

それはむしろ彼女から
望むことが多く、完全に未知の
快感の虜となってしまうていた。



やっぱ
まずいよなあ……



勢いでヤツちまった
けど……



こんなのが
いつまでも続く
わけないよな



流石にこれ以上
エスカレートしない内に
ヤメにしないと

明日あたり
茉莉ちゃんにも
それとなく言おう……



ふあ……

茉莉ちゃんも
日に日にせがむ頻度が
多くなってる気がするし……

チッ...



チッ...

チッ...

チッ...

なんだ？
下半身に違和感、
というか快感...



モソモソ

おおお

...なにしてるのかな
茉莉ちゃん

うおっ、すごい
メスの臭い...





んしょ...

!?

だるだる

ーゆー



今日はママ達がいって全然できなかったから

今ならいつぱいできるよね?

ちゅー

うおっ!!

あー...茉莉ちゃん
そのことなんだけど
こういうのはもう...って



あんっ♡

おじさんのマンガでみたよ?
こうしたらきもちいんだよね?

射精るッッ



うおおっ!!
パイズリバキュームツ!?

やばいっ
もう...!!

んっ



お、お掃除フェラ...

知ってる♡

フ♡

れる♡

ん♡

千♡

フ♡

千♡

この娘は...

ん♡

すごおい
さつきより大きく
なったあ...♡



ハ♡

ハ♡

ハ♡
いくらなんでも
スケベ過ぎる...!!

おじさん
まつりわかってるよ？
最初はわからなかったけど...

ぬ...

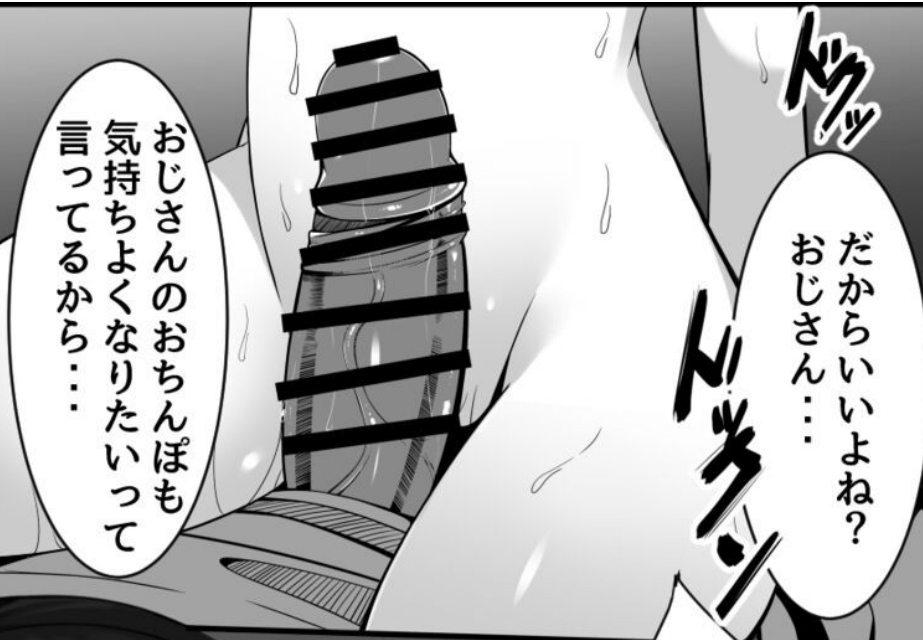
でもまつり、
ちやんとないしよ
にできるよ？

せつくすって、
本当はいけない
ことなんだよね？



ズン

ズン



ズン

おじさんのおちんぽも
気持ちよくなりたいって
言ってるから...

ズン

だからいいよね？
おじさん...



ズン

ズン

せつくすつ♡

ズン

いいよね...♡

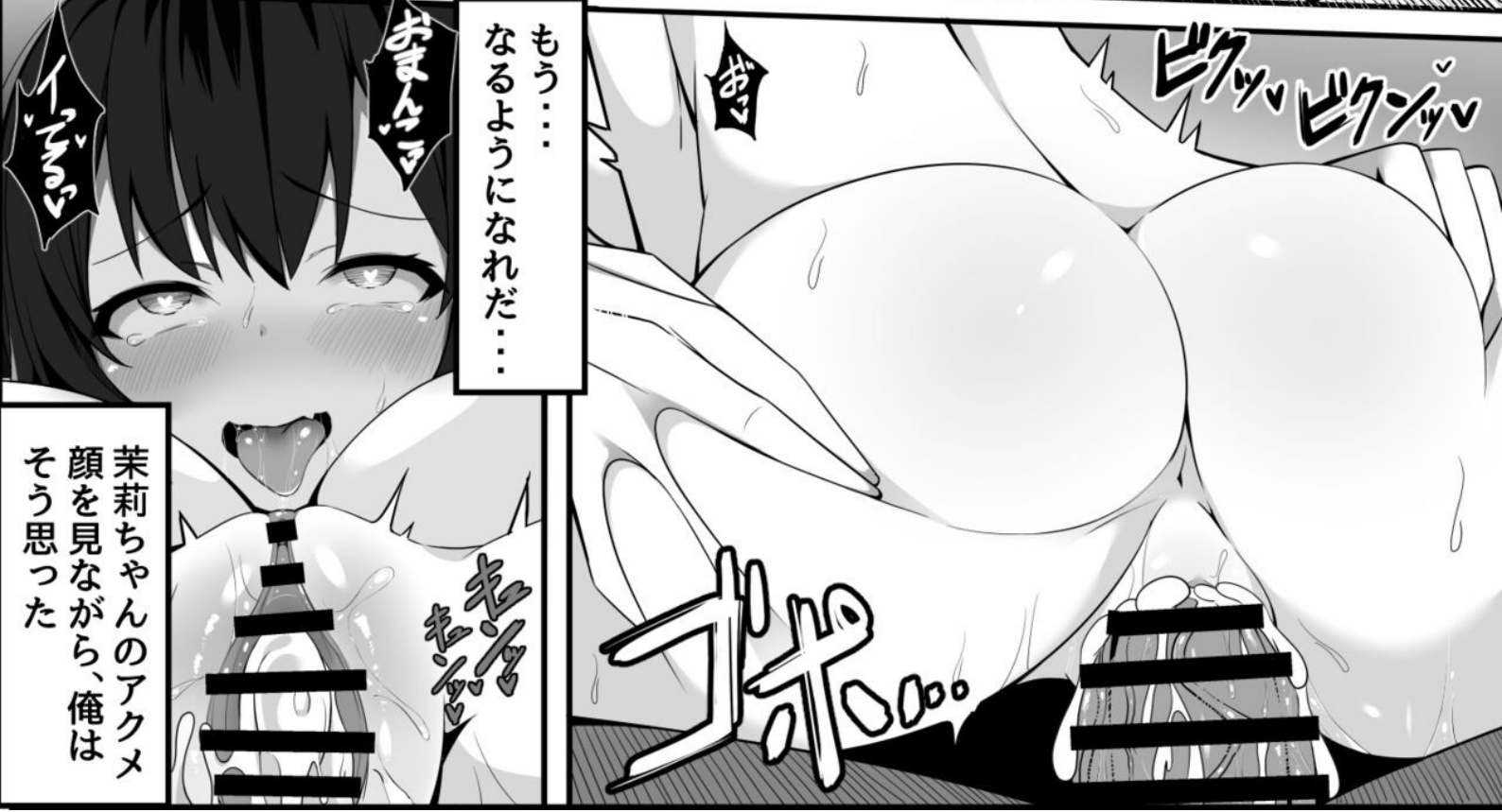
ズン



おちんぽ
ミルク
キレたあああ

おっ!!

ア
キ
レ
タ
ア
ア
ア



おまんこ

もう……
なるようになれた……

ビクッ
ビクッ

茉莉ちゃんのアクメ
顔を見ながら、俺は
そう思った

おまんこ

オ
オ
オ

それから行為は
お互いが力尽きるまで
続いた

おじさん

…きつと、この先も
なんだかんだでこの関係は
続いてしまうのだろう。
それだけ深みにハマってしまった。

彼女も…
そして俺自身も

オオオオオ

チュル

チュ

チュ

チュ

チュ

ん

♡♡♡

♡♡♡

「お兄ちゃんっこれすごいっ♡すごいよおっ♡
茉莉こんな遊び知らなかったよおっ♡」

「大人はみんな「子供作りセックス」で楽しんでるよ
本当は子供には内緒なんだけどね
茉莉ちゃんはかわいい姪っこだから、特別だよ♡」

「あっ♡ほんとお？みんなは知らないのに、
茉莉だけこんなきもちいことできるんだあ♡」



「ひうっ……!?なんかっ……くるっ♡
お兄ちゃんっなんかまきちやうよおっ♡」

「それは「いく」っていうんだよ。
女の子はみんないくとすごく気持ちよくなれるんだ
いく時はちやんといくって言うんだよ?」

「い、く……っ?い、く……っ♡い、くっ♡い、くっ♡」





「茉莉ちゃん、すっかり種付けセックスに病みつきたね〜」
「だってえ…こんなきもちいのやめられっこないもん♡」
「友達とあそんでる時もずっとお兄ちゃんの おちんぼ欲しくて…我慢してたんだもん♡」

おちんぼ♡
もいもい♡

アハハ♡

アハハ♡

アハハ♡

アハハ♡

アハハ♡

アハハ♡



「あゝまた射精そう」

「うんっ♡うんっ♡また中にお兄ちゃんの

せーえき射精してえっ♡」

「もうずっとイッてるからっ♡

いま種付けされたらせつたいすごいからあっ♡

お兄ちゃんのどろどろせーえき茉莉のおまんこに

いっぱい射精してえっ♡」

「イクッ…♡イクう…っ♡イクイクイクイクッ♡♡」

おっ♡

イク♡

だひっ♡

イク♡

イク♡

イク♡

イク♡

茉莉ちゃん、おなか大きくなっただなあ」
「えへへっ♡おにいちちゃんが毎日おまんこに
せーえきいっばい出してくれたからね♡」

あはっ♡

「それでも毎日ちんぽおねだりする
んだもんなあ…ほんとスケベな姪っこだよ♡」
「おにいちちゃんがまつりにいけない遊び
教えたくせにっ♡」
もうまつり、おにいちちゃんと種付けセックス
すること以外考えられないよお♡」

あはっ♡

あはっ♡

あはっ♡

あはっ♡



「でもそろそろママになるんだから
ちよつとは我慢して身体を大事にしないと
…あつ射精る！」

あゝん♡

「うんっ♡射精してえっ♡

種付けセックスしなくてもまつりが我慢

できるくらいっ、いっぱい射精していっぱい

好き好きしてえっ♡

「まつりももういくからあつ♡

ママおまんこせーえきゴクゴクして

イツちやうからあつ♡」

あゝん♡

あゝん♡

あゝん♡



「まさか茉莉ちゃんからスク水セックスを迫ってくるとは…」

「えへへ〜お兄ちゃん、こういうの好きでしょ？おちんぼいつもより硬くなってるし♡」

当然!!ロリスク水が嫌いな男なんてこの世に存在しないよ!!」

あーん♡

あーん♡

あーん♡

あーん♡

あーん♡

あーん♡



「射精るッッ!!」

「イグッッ♡♡」



「あー射精る射精る…
でもまだまだヤレそうだわ
ベッド行こっか？茉莉ちゃんも
完全にスイッチ入ったっばいし」

「あっ…♡イ、クう…♡
まつり、もっとおちんぼほしいのお
…♡」

おっ

ん

ん

ん

ん

ん

ん

あー

ん

ん

♡

ベッドに移動して早々、俺の身体の上に跨る茉莉ちゃん。不釣り合いなまでに大きい乳房を揺らしながら一心不乱に腰を振る様は、まさにサカリのついた一匹の雌に他ならない。初めてセックスを仕込んだあの日以来、少女の性欲は日増しに大きくなっていった。

ひん

ひん





ビュルルルルルルツ!!

「イツ：グウウウウツツ♡♡」

グ
ウ
ウ
ウ
ツ
ツ

グ
ウ
ウ
ウ
ツ
ツ

「もっとお…もっと欲しいのお…♡」

数時間後……

「いや、射精した射精した！」

そろそろ茉莉ちゃんも満足できた？」

「ひゃ、ひい……らいまんぞく、れしゅう……♡」



そう言いながらも俺のチンポを啜えこんだ
小さなおまんこは、まだ離したくないと
ばかりにキュウキュウと締めつけ続けていた。

「んひひひひひまたイグううううう♡」

茉莉ちゃんの性欲は、彼女のお腹が見るも明らかに膨らみ出し、子を宿しても留まることを知らず。歳不相応に熟れた身体で誘惑してくる少女に、俺も興奮を抑えることは出来なかった。

あま

「このポーズっ、しゅきっ♡なんだかわかんないけどっ…おにいちゃんのモノにされたみたいでドキドキするのぉっ♡」



「お腹の中に赤ちゃんがいるのだ、茉莉ちゃんはスケベでいけないママだなあ」

「あかちゃんっ♡ごめんねえっ♡
ママ、あかちゃんいるのにつ、あかちゃん
みたいな格好して、おまんこでおちんぼ食べちゃってるのおっ♡」

「茉莉ちゃんほんと正回すぎっ……また射精すよっ!」

「だひてえっ♡あかちゃんもミルク欲しがってるからあっ♡
茉莉のトロトロおまんこももうイクからあっ♡
いっぱいおちんぼミルク飲ませてっ♡
イクッ♡イクイクイクイクイクイクイクウウツ♡♡」



「イッグウウウツツ♡♡」

おおおお

ビクッ

「おおおおっ♡おまんこも赤ちゃんも喜んでるよおお♡

まつりすっくイッてりゆのおおおっ♡♡」

「うおっ……ザーメン搾り取ろうと膣中がうねってる……!

やばら、これ、まだ……!」

クッ

クッ

ビクッ

ビクッ

空も白み始めた早朝、俺を起こしたのは目覚ましではなく、淫猥な水音と下半身に襲い来る快感だった。

「あっ♡おはよっおにーちゃんっ♡」

「茉莉ちゃん、こんな朝からなににして…っつかその格好なに!？」

「なになって、おはようの種付けセックスだよっ♡おにーちゃん、こういうの好きなんだよねっ? この前おにーちゃんのパソコンで見たからっ♡お小遣いで買ったあつ♡」

んんん

グーッ

グーッ

ふん

んんん

んんん





「それは好き……っつーか最高!!
なんだけどちよつと一旦止まってっ……
起き抜けにもうっ……!!」

「だめっ♥もう止められないもんっ♥

まつりもうイクからあつ♥

もうおまんこおちんぽミルク

ゴツクンする準備できてるからあつ♥

朝一ザーメンいっぱいドピュドピュしてええっ♥

「うぐっ……おおおっ……!!」

「イツツグウツツ♥♥♥」

「うおおっ……!」〇の発情期まんこやべえっ……!

うねって朝一ザーメン絞り取りにきてる……っ!!」

「あへえ……♥一番搾りのザーメンミルクククウ……ツ♥

まつりのおまんこ、もっともつと飲みたいって言うてるのお
……っ♥」

当然、サカリのついた雌である彼女が一発限りで満足する
はずもなく、幼くも熟した膣肉は更に雄の子種を絞ろうと蠢き出す。

挿入



おっ♡

ん♡

ん♡

ん♡

ん♡

ん♡

ん♡

目にハートを宿らせ、大きな胸と
ポテ腹を揺らしながら腰を振りたくる少女。
こうなつてはもはや、彼女の子宮が満ち足りる
まで解放されることはない。
ここにいるのは小さくも情欲に餓えた獣なのだ。

「おおおっ♡赤ちゃんのお部屋とおにーちゃんの
おちんぼがチュッチュしてるよおおっ♡
これしゅごいっ♡またイグツ♡イグイグイグツ♡」



甲高く上げられる絶頂の嬌声。
噴水のように絶えず吹き上がる母乳。
二人の間に水たまりができるほどに
腔内から溢れかえる精液。
それでも、いまだ彼女の瞳から劣情の
灯が消えることはない……

「イツグウウウウウウツ♡♡♡♡」





「ぐうう…っ！」

「この子は人のせいにしてっ！」

「そんな悪い淫乱娘にはお仕置きだ！」

「してえっ♥赤ちゃんいてもおちんぼ

欲しがつちやう悪いおまんこにお仕置き

ザーメン注入してえっ♥」

「クッソオオオ全然反省してない！」

「また発情メスガキ喜ばせるだけのご褒美ザーメン

射精る…っ!!」

「きてへえっ♥♥♥」

おまんこ

おまんこ

おまんこ

おまんこ

おまんこ

おまんこ

おまんこ



「射精るツツツ」

「イグウウウウウツツ」

「おおおっ♥おまんこにせーえき染みるう…っ♥
おにーちゃんのおちんぼ深く突き刺さって、
さきっぽが赤ちゃんのお部屋に入ってきてるのお♥
もっどっ♥全部入っちゃうくらいっ♥
まつりのおまんこおちんぼとザーメンでいっぱいにしてえっ♥」

オチン

オチン

オチン



「おっ♡ほおおっ♡おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡」

幾度のセックス、幾度の中出しを重ねていると、茉莉ちゃんは次第に言葉を紡ぐ余裕も失くし、およそ少女に似つかわしくない、サカリのついた動物のような嬌声を上げ始める。それが彼女の限界に近いというサインであり、今までで最も大きな快感が訪れる予兆でもある。熱に浮かされたような潤んだ目で、媚びるように見つめてくる彼女に、俺のチンポはより大きく膨張し。

ぱんぱん

おっほおっ

ぱんぱん

おっほおっ



おーん

まっ

「おっ♡おだーちゃん♡
待って…っ♡もっ、もっ♡
しんどいからあっ♡」

「ダメだよ茉莉ちゃん。

言ったでしょ？お仕置きだっつて」

「しよっ、しよんにやあっ♡」

「それにほら、茉莉ちゃんのおまんこは

喜んでるよ？やめないでっつてキュウキュウ締め付けてくる」

「おっ♡おっ♡」

おっ♡おっ♡

おっ♡おっ♡



ほおほお♡

「よく言えました♡
んっ♡おおおおおっ♡♡♡」

「まちゆりはああっ♡
おにーちゃん専用のマゾメス
肉奴隷でしゅううつ♡♡いつでも
まつりで気持ちよくなってください♡♡♡」

認めてなにかのスイッチが入ったかのように、
俺のエロ漫画でも覚えたのであるう淫語を狂ったように叫ぶ茉莉ちゃん。
その意味を理解しているかは定かでないが、心からそれを望んでいるような、
支配されることを望む雌の顔そのものだった。

そこから先は言葉は不要だった。
動物がそうしているように、
ただ本能に衝き動かされるままに、
互いの肉体を求め合い、快楽を貪っていた。





「んほおおおおおおおおおお
おおおおおっ♡♡♡」

あんなに

おっぱい

おっぱい

おっぱい

「ああんっ♡もうっ♡
お兄ちゃんがつつきすぎいいっ♡♡♡」
「なにががつつきすぎなものかっ!!」
そんなハレンチな格好で誘ってきおってからさっ!!」

あ、は

「ち、ちがうもんっ♡
まつり、今日はうさぎさんの気分
だったけどもんっ♡
べつにおちんぼなんて欲しくなかつたもんっ♡」

10!!

「挿入れる前からマン汁だらだらだったよ！
んじや説得力ないんだよ！
デカ乳デカケツフエロモンムンムンで交尾
催促しやがって！そんなに種付けされたいかつ!!」

お、は

は

「まっ、まつりは悪くないもんっ♡
おちんぼ見たら勝手におまんこが媚びちやうような
エツちなうさぎさんにしつけたのはおにいちやんだもんっ♡
だからまつりはあっ♡いつでも種付けセツクスしてもらえる
ように準備してるのおおっ♡♡」

「クソツなんてヤンチャな発情うさぎだ！
だったらお望み通り種付けしてやるっ!!」

10!

10!

「射精るツツ!!」

「んおおおっ♡♡」

おっ♡
は♡

おっ♡

「おっ♡今日一番のおチンポミルクキくらっ♡

ペこペこのうさぎまんこがぐくぐく飲んじやってるっ♡

おまんこの申がいつもよりおにいちちゃんのこと好き好きって

キスしちやってるのおおっ♡♡」

おっ♡

おっ♡♡♡

ドッ♡

ドッ♡♡

「孕めツツツツ」

「おおおおっ♡

イツグウウウウツツ♡♡」

おっおっ

もはや着床準備は万全と言わんばかりに

降りきった子宮は激しく鈴口へと吸い付き、

最後の一滴まで子種を逃さんとする。

大小不釣り合いな2匹の獣による交尾は、夜が明けるまで続いた。



「ふふっ♡こんなお腹になっても
うさぎさんがいいなんて、おにいちゃんってほんとに
変態さんなんだあ……♡でもいいよ♡
ほら、ぴよーんぴよんっ♡♡♡」

俺の身体に馬乗りになり、ぴよんぴよんと上下に跳ねる少女。
その運動に合わせて揺れる、小さな体には不釣り合いなほど
巨大な胸肉と、すっかり大きく膨らんだ腹。
そのある種いびつな姿は俺の情欲をますます駆り立て、彼女も彼女で
身重でありながら有り余る性欲は健在だ。



「んああっ♡おちんぼビクビクして膨らんできたあっ♡
もうおちんぼミルク射精ちやうの？
いいよっ♡我慢しないでっ♡おかささんうさぎとあかちゃんうさぎ
に特濃ザーメンミルクゴクゴク飲ませてっ♡」

「ほーら、ぴよんぴよんっ♡
ぴよんぴよんっ♡」

「ぐおおおっ。。。！上下するたびに膣内がキツく収縮するっ
なんてスケベな回り妊婦まんこなんだっ。。。うおおおおおっ！！」

ビクビク

グッ

グッ

グッ

グッ

「んおおおおつ♡

ザーメンミルクきたあああつ♡」

んおおおつ♡

おおおつ♡

「おまんこにチンポミルク染み込んでるううつ♡
あかちゃんもパパのミルクでよろこんでるよおおつ♡
まつりもミルク出ちやうのおおおつ♡
もつとつ♡もつとおまんこでチンポしごいてあげるからっ♡
もつとチンポミルク射精してえっ♡♡」

ドクッ♡

ドクッ♡

♡♡

数十分後……

「あへっ……♡種付けせつくしゅ……
さい、ごお……ぴよん……♡」

最初こそ余裕があったものの、何度か中出しと
絶頂を繰り返すうちにすっかりとアへ堕ちしてしまう
ザコロリピツチな茉莉ちゃん。

絶えずイキ続けているのか、まるで射精のごとく
ビュービューと止まることのない射乳が続いている。
そんな墮落しきった彼女を見ると、俺のチンポは衰えるどころか硬さを増した。

オオオオ

オオオオ



「あんっ♡ま、まだするのぉ？
まつり、ちよっ♡とつかれちゃった……♡」

「またまた、本当は攻められるのを期待してたけど」

「そ、そんなことっ——おっ♡」

茉莉ちゃんのおまんこはそうは言っってないけどね」

10
10
あっ♡

10
10
あっ♡

「てか、このやり取りで気持ちよくなっちゃってるでしょ？」

だって茉莉ちゃんは、いじめられて感じちやうマゾメス」●だもんね？」

それともやつぱりお預けする？たまには我慢を覚えさせるのもいいかも」

「……やっ♡おちゃんほおあずけやっ♡あっ♡」

うそついてごめんしやいっ♡まつりはいじめられて気持ちよくなっちゃう

わるいマゾメスなのおっ♡

だからもっ♡ともおチンポ様でおしおきしてっ♡いっ♡ぱいじめてえええっ♡♡

10
10
あっ♡

「じゃあちやんとおねだりしないかね？
サカリのついたメスうさぎらしく、ご主人さまになんてお願いするのかな？」

「は、はいっ♡まちゆりはあ…ご主人さまのおチンポがないと
生きていけないダメダメなマゾメスうさぎですう…♡
ご主人さまのためならまつり、なんでもしますから…
ダメなマゾまんにおめぐみザーメンくださいっ…♡♡」



「はい、よく出来ました♥」

ドクンツツツツツツツ♥♥♥♥♥

「…ツ!? おおおおおつ♥♥♥♥♥

イグウツ♥イグウツ♥イグウツ♥イグウツ♥

イグウツ♥

イグウツ♥

イグウツ♥

イグウツ♥

オ

ド

「んおおおおおおおつ♥イクの止まらなからっ♥
マゾメス発情まんこっ♥おしおきされてほろびもあつてうれいっ♥
ずつとキyunキyunイツてるのおおっ♥♥♥
ご主人しやまああつ♥もつとまつりのいっしつけてくださいやららららっ♥♥♥」

